

## 令和元年度 第1回鴨川市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和元年12月18日(水) 開会 午前10時50分  
閉会 午後12時50分

2 場 所 鴨川中学校 1階 会議室

3 出席者 (1) 亀田郁夫 市長 (2) 月岡正美 教育長  
(3) 石井千枝 教育委員 (4) 根本新太郎 教育委員  
(5) 吉原里夏 教育委員 (6) 永島康弘 教育委員  
\*事務局員  
(7) 渡邊弘仁 学校教育課長 (8) 中村明博 学校教育課指導主事  
(9) 三浦 徹 学校教育課主任管理主事  
\*鴨川中学校職員  
(10) 吉田洋一 校長 (11) 屋代伸也 教頭

### 4 開会・出席者紹介（中村学校教育課指導主事）

○ 中村学校教育課指導主事から、出席委員および関係職員の紹介及び授業参観クラスについての説明がなされた。

### 5 市長挨拶（亀田市長）

こんにちは。ご紹介を頂きました、亀田です。

本日は、総合教育会議にご出席を頂き、ありがとうございます。

教育委員の皆様には、日頃、高い識見と熱意をもって、教育行政の充実にご尽力を頂いておりますこと、厚くお礼申し上げます。

はじめに、この度の台風、豪雨災害の際、教育委員、関係者の皆様には、子ども達の安全確保と学校施設の復旧に、ご尽力を賜りましたこと、まずもって、敬意と感謝を申し上げます。

この度の災害から得た教訓を糧に、新たに構築する危機管理体制のもと、日常の備えをより確かなものとし、市民全員が災害に対する自助・共助の意識を共有できる、「災害に強いまちづくり」、「次世代に安心・安全を引き継げるまちづくり」を実現して参る考えであります。

私は市長就任以来、「経済再生」、「生活充実」、「インフラ整備」、「行財政改革」を重点施策として、強い鴨川づくりを進めております。その概要は、お手元の「資料1」、「資料2」にて、ご確認いただきたいと思います。ここでは、子ども達の教育や子育て支援、学校施設の跡地活用に関する事業について、重点的にお話を申し上げます。

本年4月、統合・天津小湊小学校が開校いたしました。通常よりも短い準備期間ではありましたが、小湊小・中学校跡地活用も含め、地域の皆様方と丁寧に協議を重ね、無事、開校を迎えることができました。天津、小湊両地区の子ども達が一体となって元気に活動する姿を見ることができましたことは、私にとっても大きな喜びでありました。小湊小・中学校跡地活用につきましては、10月臨時議会の補正予算可決をもって、改め

て地元の皆様方とともに地域活性化の拠点としての「小湊さとうみ学校」の実現に向け、邁進して参ります。

子ども達の健康に配慮した保育・教育環境の実現のために進めて参りました幼稚園・認定こども園・保育園、小・中学校のエアコン設置事業につきましても、台風の影響等による工事の遅れはありましたが、年明け2月には、すべての施設で設置工事が完了する見込みであります。

教育支援センター「ステーション」を開設できたことも、不登校をはじめ様々な悩みや課題を抱える子ども達、保護者、学校関係者にとって大きな希望となるものでした。開設から半年余りが過ぎ、ここまで順調に推移して参りましたが、さらなる活動の充実を大いに期待しております。

子育て支援の充実では、鴨川シーワールドとの連携により、「子育て世帯応援事業」をスタートし、ご好評を頂いております。引き続き、ライフサイクルに応じた、きめ細かい支援を行うとともに、子育て環境の整備に努めて参ります。さらに先月から、幼児教育・保育の無償化がスタートしましたが、公立の幼稚園、保育園は、幼保連携型認定こども園への移行を進め、3歳児の幼児教育実施に取り組むほか、学童保育に係る保護者負担の軽減を図るため、社会福祉協議会による運営の拡大に向けて支援していきます。

総合教育会議は、自治体の長と教育委員会が、互いの役割分担を明確にしながらも、一体となって課題に取り組むことを目的としております。本日は、教育行政の推進につながる、有意義な意見交換の場としたいと存じますので、忌憚のないご意見を頂きますようお願い申し上げます、冒頭の挨拶といたします。

本日はどうぞ、よろしくお願ひいたします。

## 6 学校長より

- 吉田校長から、学校経営の概要及び現在の生徒等の状況について、資料をもとに説明がなされた。

—— 屋代教頭の案内により授業参観（10:25～11:10） ——

## 7 確認事項（渡邊学校教育課長）

- 渡邊学校教育課長から、総合教育会議の運営について、資料をもとに説明がなされた。

## 8 協議（進行：渡邊学校教育課長）

- ・ 吉田校長から、授業参観の補足として、「特別支援教育支援員の活用（美術、数学）」、「タブレットPCの活用（特別支援学級）」、「ALTの活用（英語）」について、説明がなされた。

### (1) 特別な支援を必要とする生徒への対応

- ・ 月岡教育長から、授業参観では、特別な支援を要すると思われる生徒たちも比較的落ち着いて学習に臨んでいる様子が見られたが、普段も同様なのか、との質問がなされた。
- ・ 吉田校長から、外部の方の授業参観なので、生徒も緊張感を持って授業に臨んで

いた、しかし、普段のように周囲の仲間によっかいを出す生徒もいたので、そういう生徒に対し、支援員のサポートが入ることはありがたい、との説明がなされた。

- ・ 永島委員から、中学校の特別支援学級では、担任教諭が、自身の専門外の教科も複数指導しなくてはならない、テストや補習なども含めどのような配慮をしているのか、との質問がなされた。
- ・ 吉田校長から、特別支援学級の担任が専門外の教科を複数指導しなくてはならないのは制度上致し方ないので、生徒個々に作成した「個別の指導計画」に沿って個に応じた学習を丁寧に進めている、との説明がなされた。

加えて、補習については、特別支援学級だけではなく、通常学級においても、定時に出発する下校用スクールバスの関係から放課後の時間の確保が難しく、学校全体の課題である、「放課後の学習優先日」や「朝読書の時間を活用した基礎学力定着用ドリル」の取組を今後充実させていきたい、との説明がなされた。

- ・ 石井委員から、「個の時代」と言われる中で、集団生活の基礎を学べるのは学校しかない、鴨川中においては、体育祭などで生徒たちが大勢の仲間とともにいきいきと活動する姿が見られるのは大切なことだ、との意見がなされた。

加えて、複数学年の生徒が同時に授業を受ける特別支援学級においては、個別の課題に取り組みせるにあたり、タブレットPCの活用は大変効果的である、可能であれば、すべての活動を個別で行うのではなく、一緒に活動する場面も設定できると良いのではないかと、との意見がなされた。

## (2) 授業におけるICT機器の活用

- ・ 石井委員から、授業を参観した中で、電子黒板を活用することで生徒の理解が深まるのでは、と感じた部分があったので、今後、そういったICT機器がますます普及し、活用が図られることを期待したい、との意見がなされた。
- ・ 吉田校長から、教科書会社では、すでに教科書とタブレットPCを簡易な形で連携させるシステムを開発している、そういったものも有効に活用していきたい、との説明がなされた。
- ・ 石井委員から、そういった便利なシステムを、生徒たちの「学びたい、もっと理解したい」という思いとうまく結びつけていけることを期待する、との意見がなされた。
- ・ 月岡教育長から、国では児童生徒1人につき1台のタブレットPCを配置する方針を打ち出しており、PC1台あたり4万5千円の補助を予算計上している、今後、2023年度までを目途に計画的に配置を進めていくことになるだろう、との説明がなされた。

## (3) 学校における働き方改革

- ・ 石井委員から、働き方改革については、文部科学省等複数の調査結果から、残業時間数にばかり注目が集まっているが、労働時間の削減だけが目的化することで、肝心な教育の中身の質が低下するのではないかと懸念する、教員が帰りたくても帰れない現状こそ課題がある、との意見がなされた。
- ・ 吉田校長から、鴨川中学校の職員の勤務状況について、説明がなされた。  
加えて、現在の教育活動をやみくもに縮減するのは現実的ではない、授業や生徒

指導など教員が子どもに関わる時間の確保は大切にしつつ、事務的な部分を効率よく削減していくことが必要であり、その一つの方策として、県内8割の中学校が導入していると言われる「校務支援システム」を活用することが有効なのではないか、との意見がなされた。

- ・ 三浦主任管理主事より、「校務支援システム」について、資料をもとに説明がなされた。
- ・ 月岡教育長から、学校における働き方改革は、勤務時間、内容を見直すことで、教員が余裕を持って子どもたちに接したり、自身の資質向上に時間を使うためのものであり、市では10月に「学校における働き方改革推進ガイドライン」を策定し、取り組みを進めている、との説明がなされた。

加えて、この「校務支援システム」は、その改革に大きく資するものであり、できるだけ早く導入すべきものと認識している、教育委員会としても、現在、その導入に向けて業者からの聞き取り、検討等を進めている、との説明がなされた。

- ・ 石井委員から、最近では遠距離通勤をしている職員も多いと聞く、人事異動に際しては、通勤時間は配慮されているのか、との質問がなされた。
- ・ 吉田校長から、県の人事異動方針では、通勤時間の目安は一時間以内とされている、との説明がなされた。
- ・ 亀田市長から、市でも現在、「RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）」の導入について検討を進めており、学校における「校務支援システム」も有効なものであると考える、との意見がなされた。

加えて、近隣他市の導入プロセスはどのようなになっているか、との質問がなされた。

- ・ 三浦主任管理主事から、南房総市では、平成30年度に富山学園に試験的に導入し、その成果と課題を検証した上で、本年度より市内全校での全面導入となった、他市においても、まずは数校で試験導入することが多い、との説明がなされた。
- ・ 亀田市長から、すでに先行導入している自治体と同じものを採用することのメリットはあると思うが、南房総市のシステムは本市にとっても使いやすいものなのか、との質問がなされた。
- ・ 三浦主任管理主事から、現在、聞き取りをしている各メーカーともに特色があり、南房総市採用のものと同様に比較はできない、各メーカーの強みのどの部分に重きを置くかを現在検討している、との説明がなされた。
- ・ 亀田市長から、導入に向けては、教育委員会として、今後、どのような方向性を考えているのか、との質問がなされた。
- ・ 三浦主任管理主事から、市内各校の既存施設の状況を勘案し、クラウド型システムが良いと考えており、その場合の経費は、複数業者の大まかな見積もりで5年間で3千400万円から5千万円程度である、との説明がなされた。
- ・ 月岡教育長から、この金額はあくまでもベースとなるものであり、市としてシステムをカスタマイズすると価格も変わってくる、そのため、導入にあたっては、1年程度の準備期間をみる必要がある、との説明がなされた。
- ・ 亀田市長から、市内全校に一斉導入する場合でも、準備期間は1年程度で可能なのか、との質問がなされた。
- ・ 三浦主任管理主事から、先行導入した他市においても、おおよそこの程度の期間

で準備をしている、との説明がなされた。

- ・ 亀田市長から、市役所での「RPA」導入については様々な課題も浮かび上がっているが、学校における「校務支援システム」は、先行事例が近隣に複数あることがメリットである、との意見がなされた。  
加えて、実際、導入した場合には、残業時間の縮減など、どの程度の効果が期待できるのか、との質問がなされた。
- ・ 三浦主任管理主事から、一つの事例として、大阪市では、年間200時間の勤務時間の縮減が図れたとの報告がある、との説明がなされた。
- ・ 亀田市長から、各学校ではこれまでの経緯から、事務処理等についても各々独自のやり方をしている部分もあろうと思うが、このシステムを導入することによって、それらも統一されるのか、との質問がなされた。
- ・ 吉田校長から、鴨川中学校区の校長会では、小中一貫教育の視点から、様々な文書等の様式の統一が図れた方が、小中学校間の児童生徒の個人データ等の引き継ぎや事務量の軽減に関してもメリットが大きいのではないかと、という意見が出されている、との説明がなされた。
- ・ 亀田市長から、様式等の統一を図る場合に、各学校での混乱はないか、との質問がなされた。
- ・ 吉田校長から、小中学校間の引き継ぎに関する事務処理はこれまでも行われてきたものであり、システムによりその様式等が統一されということならば、大きな混乱はない、との説明がなされた。
- ・ 亀田市長から、学校に関する情報が一つのシステムに集中することになるが、データの流出等、不安な面はないか、との質問がなされた。
- ・ 吉田校長から、すでに情報の持ち出しについては、市のマニュアルで禁止が明示されており、学校職員にも浸透しているので、その面での心配はないと考える、との説明がなされた。
- ・ 亀田市長から、そのようにメリットが大きいものならば、市教委として導入について、引き続き検討を進めるよう、意見がなされた。
- ・ 月岡教育長が、了承の意向を伝えた。

—— 市長及び教育委員が給食を試食（12:10～12:45） ——

- 長谷川学校給食センター所長から、本年度から始まった調理・配送業務等の民間業者委託の状況等について、資料をもとに説明がなされた。
- 庄司栄養教諭から、本日の献立及び食育について、資料をもとに説明がなされた。

## 9 市長挨拶・閉会（亀田市長）

教育委員の皆様、今日はどうもありがとうございました。

本日の授業参観や、働き方改革等についての協議を通して、現在、学校が抱える様々な問題について、改めて考えることができました。

市役所業務のことも、教育も、福祉も、目の前の課題に対して、今できることから一

つずつ確実に着手していきたいと考えます。

教育関係のことにつきましては、これからも皆様方からご意見をいただきながら進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

本日は、誠にありがとうございました。

○ 渡邊学校教育課長が、一切の終了を告げ、閉会を宣言した。

以上、会議の顛末を記載し、相違ないことを証する。

令和2年2月20日

鴨川市長 亀田 郁夫

会議録作成（学校教育課長 渡邊 弘仁）